

# 4 市・町・村

新潟県は全国で5番目という広い面積をもっています。新潟市を中心とした下越・佐渡地方、長岡市を中心とした中越地方、上越市を中心とした上越地方に分けることもあります。そのさかいははっきり決まってはいませんが、およそ上の地図のようになっています。



新潟県の市

近年の市町村合併で、下越・佐渡地方は13市町村、中越地方は14市町村に、上越地方は3市になりました。

## 政令指定都市新潟市と下越・佐渡地方

### 新潟市

新潟市は、信濃川と阿賀野川の河口にあり、港町として栄えてきました。明治時代になって県庁がおかれ、新潟県の政治・産業・文化・交通などの中心地として発展してきました。

2005（平成17）年には、三つの市と十の町村と合併し、人口が約80万人となって、本州の日本海側では最も人口が多い都市になりました。2007（平成19）年4月には、政令指定都市になりました。日本海を囲む国々との交流もさかんです。

市内には歴史や文化・自然について学べるしせつがたくさんあります。県立植物園・県立万代島美術館・新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）・新潟市歴史博物館（みなとぴあ）などです。新潟のマンガ・アニメ文化を発信するためのしせつとして、「新潟市マンガ・アニメ



信濃川河口にひらけた新潟市

情報館」もあります。また、市の食と花について体験や交流ができるしせつ「いくとぴあ食花」や農業を体験できるしせつ「アグリパーク」があります。

さらに、信濃川ぞいに広がるやすらぎ堤やスポーツやレクリエーションを楽しめるしせつが整備されています。新潟市にはサッカーや野球のプロチームもあり、活躍しています。



アグリパーク 搾乳体験

### 新潟市マンガ・アニメ情報館

「マンガ・アニメのまちにいがた」を広める目的でつくられました。

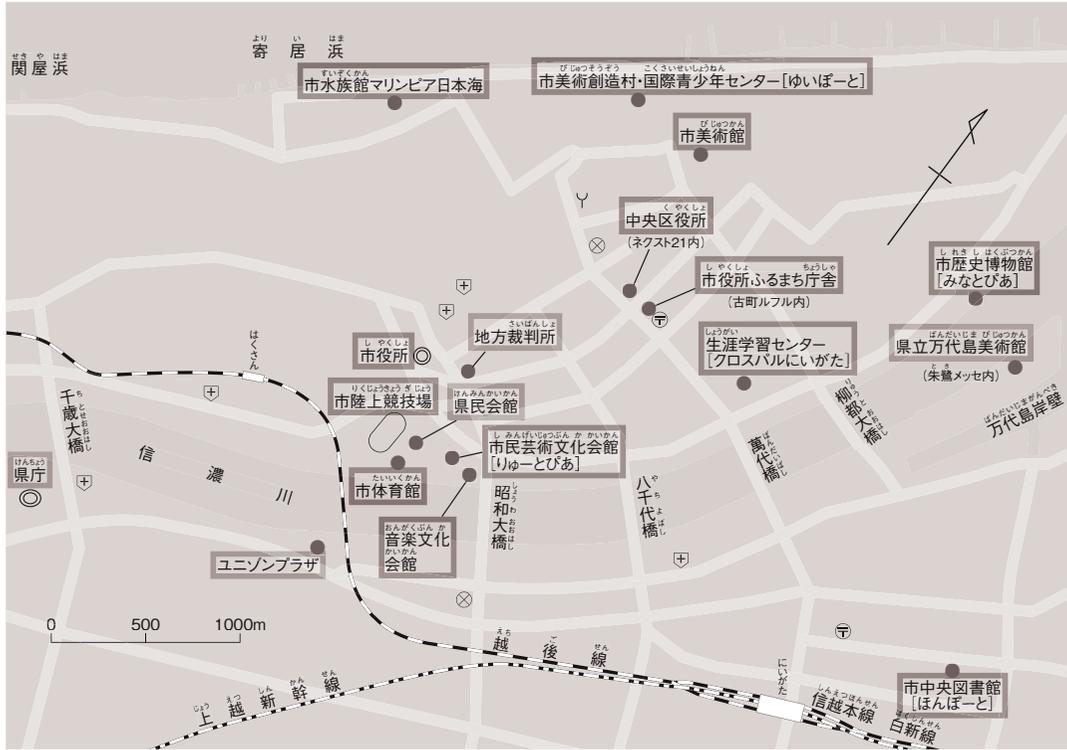
マンガ・アニメができるまでのしょうかいや人気キャラクターと遊べるコーナーや声優体験コーナーなど、マンガ・アニメのすばらしさがいっぱい詰まったしせつです。



県内市町村

### 県庁やさまざまな役所・しせつ

新潟市の中心部には、県の政治や文化などの中心になっている所があります。県庁をはじめ、裁判所・県民会館・朱鷺メッセなど、国や県・市のさまざまなしせつが集まっています。



新潟市にある主なしせつ

- 市のしせつ
- 県のしせつ
- 国のしせつ

県庁は、県民のくらしの世話をしたり、県全体の仕事を進めたりする役所です。県庁には知事をはじめ、いろいろな係の人がいて、県議会で決められたことをもとにして、県民のための仕事をしています。



新潟県議会

### さかんな産業

新潟市は、商業や工業が県内一さかんな都市です。

- 5 市の中心部の商店街（古町通りや本町通りなど）には、さまざまな商店や銀行などがあります。



万代シティ周辺の様子

また、新潟駅前や万代シティ周辺には、バスセンター・ホテル・デパート・商店・会社などが立ち並び、大ぜいの人でにぎわっています。

- 15 一方、工業は東区を中心に発展してきました。ここは、新潟港や新潟バイパスが近くにあり、原料や製品を運ぶのに便利なこと、信濃川の水を工業用水として利用できることなどの理由で、工場が集まりました。

そのほかに、菓子や水産加工物、清酒の生産を行っている地域もあります。

新潟市は、農業にも力を入れています。全国第4位の面積がある越後平野では、広い農地で、米をはじめ、野菜・くだもの・切り花・花の球根などが生産されて、各地に送り出されています。



工場がたくさんある東区

### 下越・佐渡地方の市町村

新発田市には、新発田城表門・旧二の丸隅櫓・足軽長屋など、城下町だったころをしのばせる史跡が残っています。8月には「城下町新発田ふるさとまつり」が行われ、多くの人でにぎわいます。



新発田城旧二の丸隅櫓（新発田市）

燕市は、金属洋食器をはじめとした金属工業がさかんです。つくられたフォークやナイフはノーベル賞受賞パーティーで使われたことがあります。また、国上山や大河津分水路など、自然と歴史・文化もゆたかです。

佐渡市は、世界遺産への登録をめぐり佐渡金銀山など歴史を語る史跡が多く残されています。国際保護鳥であるトキの繁殖・保護活動と同時に、島全体の自然環境の保護にも力が入られています。

五泉市は、ニットや織物の生産がさかんです。村松地区は城下町だったころを思わせるまちなみが広がり、9月には日枝神社の秋祭りなどににぎわいます。また、杉なみ木の美しい慈光寺も有名です。

阿賀野市にある瓢湖は、白鳥の飛来地として有名です。2008（平成20）年10月、ラムサール条約に登録されました。また、江戸時代からつくられている安田がわらやらく農を生かした牛乳・乳製品の生産もさかんです。



白鳥の飛来地瓢湖（阿賀野市）

胎内市は、砂丘でチューリップなどの花の球根さいばいがさかんです。また、冬には胎内スキー場がにぎわいます。山間部ではゆたかな自然を生かした観光もさかんです。

村上市は、新潟県のいちばん北にあり、城下町として昔から栄え

ています。温泉や海水浴、昔ながらの町人町・武家町・寺町などのまちなみや三面川の鮭料理を楽しむに観光客がおとずれます。



城下町村上町屋めぐり（村上市）

阿賀町は、新潟県の東部に位置し、東側は福島県ととなりあっています。主な産業は農業と林業です。阿賀野川や越後山脈などの山々の美しい自然にめぐまれ、県立自然公園があります。

聖籠町には、新潟東港があり、精密機械や食品加工などの工場が集まっています。さくらんぼが特産品となっているほか、ぶどう・なし・ももなど数多くのくだものがさいばいされています。

弥彦村は、越後一の宮といわれる弥彦神社があり、その門前町として栄えてきました。弥彦山や弥彦温泉とあわせて観光客が多くおとずれます。また、枝豆が特産品となっています。

関川村の主な産業は、米づくりを中心とした農業です。また、1967（昭和42）



えちごせきかわ大したもん蛇まつり（関川村）

年8月28日に起きた羽越大水害と大蛇伝

説をテーマにした「えちごせきかわ大したもん蛇まつり」が8月28日に行われ、82.8mの手づくりのわらの大蛇がねり歩きます。

粟島浦村は、新潟県北部の日本海にうかぶ粟島にある村です。島全体が県立自然公園となっていて、ゆたかな海のめぐみを生かした観光や漁業が行われています。また、郷土料理の「わっぱ煮」も有名です。

# ながおか ちゅうえつ 長岡市と中越地方

## 長岡市

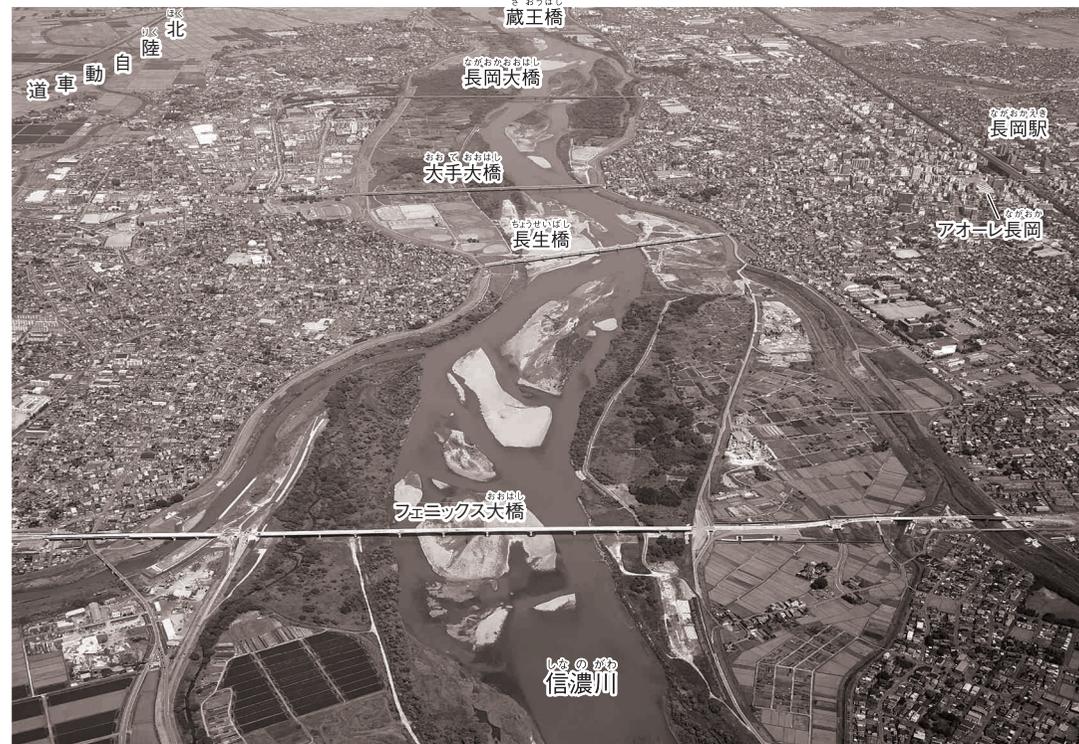
1936(昭和11)年、長岡市関原地区にある馬高遺跡で「火焰土器」が発掘され、縄文時代に、大きな集落があったことがわかりました。

1868(慶応4)年には、北越戊辰戦争でまちがやけてしまいました。おみまいとしておくられた百俵の米を学校をつくるために使い、人材を育て、まちを立て直しました。

明治時代に石油がほり出され、それをきっかけに工業がさかんになりました。その後、現在の信越本線が通り、昭和になって上越線が開通し、東京と鉄道で結ばれて機械・鉄工業が発展しました。

1945(昭和20)年に太平洋戦争の空しゅうでもまちがやけました。しかし、人々は協力してまちを復興させました。

2005(平成17)年から始まった近くの市町村との合併により、2010(平成22)年に人口約28万人の新しい長岡市が誕生しました。



信濃川ぞいに広がる長岡市

提供：長岡市

8月の長岡まつりの大花火大会は有名です。空しゅうにより大きな被害を受けた都市として、慰霊と平和への願いをこめて、毎年8月1日には「柿川とうろう流し」が行われ、2日・3日に花火が打ち上げられます。



長岡まつりの大花火大会

## おも 主なしせつや産業

長岡市は、上越新幹線・北陸自動車道・関越自動車道などの高速交通網が整備され、日本各地と結ばれています。こうした便利な交通網を利用し、産業が発展してきました。機械や食料品・金属・鉄鋼・電子部品などの工業製品の生産額や商品の販売額は、新潟市につぎ県内第2位です。

長岡地域には、国や県・市のしせつがたくさんあります。2012(平成24)年には、市役所をはじめ、多くの市民が活動・交流できるしせつとして「アオーレ長岡」ができました。また、国のしせつとして国営越後丘陵公園があります。



アオーレ長岡

中之島地域は、米とれんこんづくりがさかんです。寺泊地域は、海水浴場や魚の市場通りに多くの人がおとずれます。三島地域は林業のまちで、毎年「全日本丸太早切選手権大会」が行われます。和島地域は、「良寛の里」として観光に力を入れています。与板地域は鍛冶の町で、伝統的工芸品「越後与板打刃物」が有名です。枋尾地域は古くから織物のまちで、ニットの生産がさかんです。山古志地域や川口地域では、特産のにしきごいの養しよくがさかんです。

越路地域には、米菓やスポーツ用品などの工場があります。小国地域は、伝統産業の「小国和紙」が有名です。

### 中越地方の市町村

三条市は、国道や高速道路のインターチェンジ、新幹線駅といった交通網が整備されています。江戸時代の和くぎづくりをきっかけに、金属工業が発展してきました。伝統的工艺品として「越後三条打刃物」が有名です。

柏崎市は、明治時代に国内初の本格的な石油の精製が始まったのをきっかけに機械・金属工業が発展してきました。また、県内で初めて海水浴が行われた柏崎市には、15か所もの海水浴場があります。このほか、7月末に行われる「海の大花火大会」は、越後三大花火の一つに数えられており、たくさんの観光客でにぎわいます。

南魚沼市は、「コシヒカリ」が特産品となっています。また、豊富にある森林を生かしてさいばいされるまいたけの生産量が日本一です。塩沢地域では古くから織物がさかんで、国の伝統的工艺品に指定されている「塩沢紬」という絹織物もつくられています。

十日町市は、雪深くきびしい冬の間の副業として、古くから織物業が発展してきました。「十日町雪まつり」や3年に一度開催される「大地の芸術祭」などのイベントも多数行われています。

魚沼市は、豊富な雪どけ水を利用して米をつくっています。市内には、良質の水を必要とする山菜やきのこなどの食品関係の会社や、日本酒の酒造会社も多くあります。

見附市は、新潟県のほぼ中央に位置しています。ニットと織物の生産がさかんで、全国有数のせんい製品の産地



ニットまつりの様子 (見附市)

です。

小千谷市は、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「小千谷縮」という麻織物や「泳ぐ宝石」とよばれるにし

きごいが生産されています。ほかにも、「三尺玉発祥の地」である片貝の花火や小千谷闘牛場で行われる「牛の角突き」には、たくさんの観光客がおとずれます。

加茂市は、木工業や電気器具製造などがさかんです。中でも伝統的工艺品「加茂桐箆笥」が有名で、日本一の桐たんすの産地となっています。

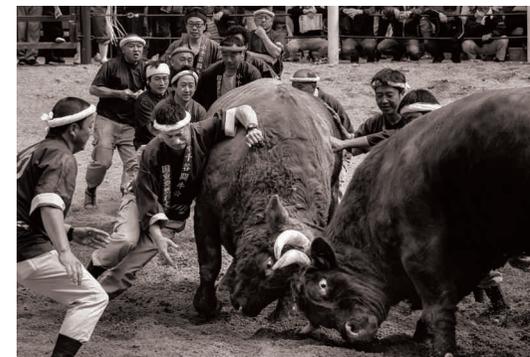
田上町は、自然がゆたかで、農産物では米・桃・梅・なめこなどの特産品があります。

津南町は、新潟県の最南端にあり、ゆたかな自然にめぐまれています。「津南ひまわり広場」のひまわりや秋山郷の紅葉が見ごろになると、観光客でにぎわいます。「雪下にんじん」とよばれる春にんじんやアスパラガス、野沢菜なども有名です。

湯沢町は、江戸時代に三国街道の宿場町の一つとして栄えました。上越新幹線が開通し、越後湯沢駅やスキー場専用駅ができたことから、県外や国外からスキー客や観光客がおとずれています。

出雲崎町は、江戸時代に佐渡の金銀が荷あげされ、また北前船による港町として栄えました。現在は、妻入りのまちなみや町出身の良寛をはじめとする観光資源を生かしたまちづくりが行われています。

刈羽村は、西側に砂丘があり、防風林をかねた松林と果樹園が広がっています。海岸側には、柏崎刈羽原子力発電所があります。



牛の角突き (小千谷市)



津南ひまわり広場

☆  
くわしくは  
72~75ページ  
しらべてみよう

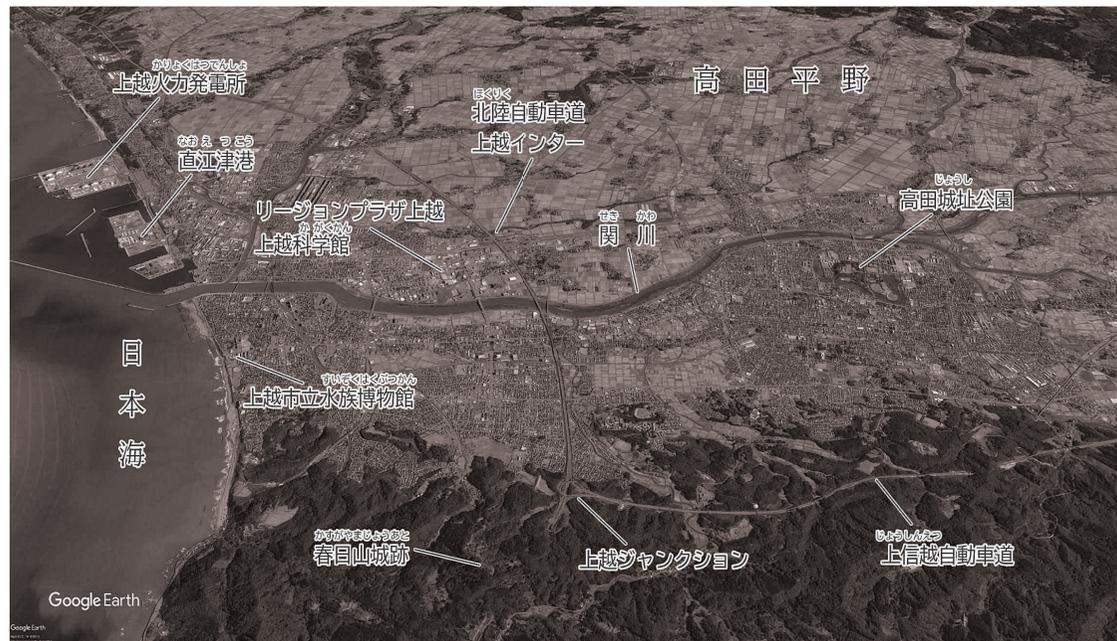
# 上越市と上越地方

## 上越市

2005(平成17)年の市町村合併で大きくなった上越市の人口は、  
 現在約18万4000人です。973km<sup>2</sup>という広い面積のほとんどが田  
 園・中山間地で、ゆたかな自然を大切にしながら、いっそうの発展  
 を目指しています。高田地区と直江津地区の中間にある高さ180m  
 の山地には、戦国時代の武将上杉謙信がいた春日山城のあとがあり  
 ます。江戸時代のはじめに高田平野に高田城がつくられてから、高  
 田地区は城下町として栄えてきました。

## 主なしせつや産業

城下町の名ごりをとどめる高田地区には、高田城址公園内に図書  
 館・歴史博物館・美術館・オーレンプラザ・陸上競技場・野球場な  
 どがあり、市民のいこいの場となっています。公園内とその周辺に  
 は約4000本のサクラの木、お堀には東洋一といわれるほどたくさ  
 んのハスが植えられ、多くの見物客がおとずれます。



高岡平野に広がる上越市

市街地のまちなみには、総  
 延長約13kmの日本一長い「雁  
 木」があり、歴史を感じさせ  
 ます。高田駅前通りと本町通  
 りには雁木風アーケードがつ  
 くられて、近代的な商店街と  
 して生まれ変わりました。

直江津地区は、古くから港  
 町として栄えてきました。現在は、アルミ加工や電子工業の工場な  
 どが集まる「上越テクノセンター」があります。また、直江津港に  
 は、2012(平成24)年に国内最大級の上越火力発電所、よく年  
 にはLNG(液化天然ガス)受け入れ基地が完成し、エネルギー港  
 湾としての役割が大きくなっています。

関川の東側の北陸自動車道上越インター周辺には、「リージョン  
 プラザ上越」や上越科学館などのしせつ、ショッピングセンターな  
 どが立ちならび、大ぜいの人でにぎわっています。

また、2018(平成30)年6月に上越市立水族博物館「うみがた  
 り」がオープンしま  
 した。日本海をバッ  
 クにしたダイナミッ  
 クなイルカショー  
 や、飼育数が120羽  
 ほどのマゼランペン  
 ギンが人気で、県外  
 から多くの人々が  
 おとずれています。



日本一長い雁木の中を登校する小学生たち

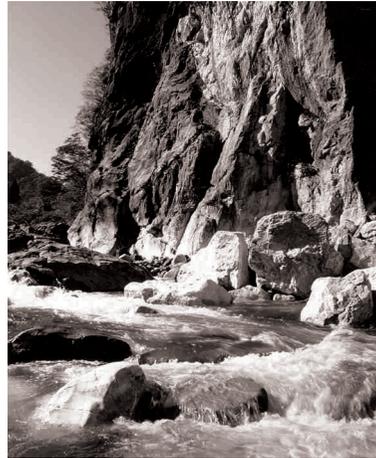


「うみがたり」のイルカショー

2015（平成27）年3月に、北陸地方と首都圏を結ぶ北陸新幹線が開通しました。上越市には「上越妙高駅」が、糸魚川市には新しい「糸魚川駅」ができ、多くの人に利用されています。

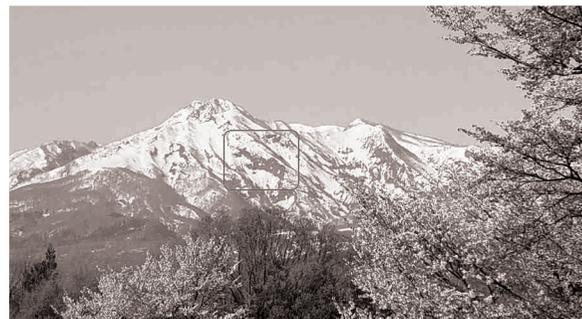
### 糸魚川市と妙高市

糸魚川市は、海や山があり、自然にめぐまれています。とくに、日本列島が誕生したときの大地のさけ目（フォッサマグナ）を見ることがができます。また、小滝川渓谷はヒスイの産地として有名です。こうしたとても貴重な自然をふくむ公園として「世界ジオパーク」にみとめられました。



ヒスイの産地「小滝川渓谷」

妙高市は、妙高山が有名です。妙高高原地域、妙高地域には昔からの温泉があります。冬は雪が多いので大きなスキー場がいくつもあります。土地の高さを利用した高原野菜のさいばいもさかんです。



妙高山の「はね馬」

この二つの市は、自然を生かした観光を中心に発展していくことが期待されています。

### フォッサマグナミュージアム

1994（平成6）年4月に、糸魚川市の美山公園にある奴奈川の郷に開館した石の博物館です。フォッサマグナに関する展示や、糸魚川やその周辺地域から産出するヒスイやさまざまな鉱物・化石・岩石の展示などを見ることがができます。



## 5 交通

### 道路

新潟県には、5本の高速道路と26本の国道があり、県内や県外への交通に役だっています。ほかに、県道や市町村道があり、市町村の間をつなぎ、人々の生活のために使われています。

#### 5 高速道路

高速道路は、1978（昭和53）年に、初めて新潟市と長岡市の間が開通しました。今では下の表のように各地へ通じる高速道路が5本もあり、県内では合わせて441kmの長さがあります。これらの道路を使って、群馬県や東京都・富山県・長野県・福島県などの都市とつながり、行き来が早くできるようになりました。

15 関越自動車道ができ  
てから、新潟県と東京都を中心とした関東地方との結びつきが強くなりました。新潟市から東京都まで、今では4時間ほどで行くことができます。

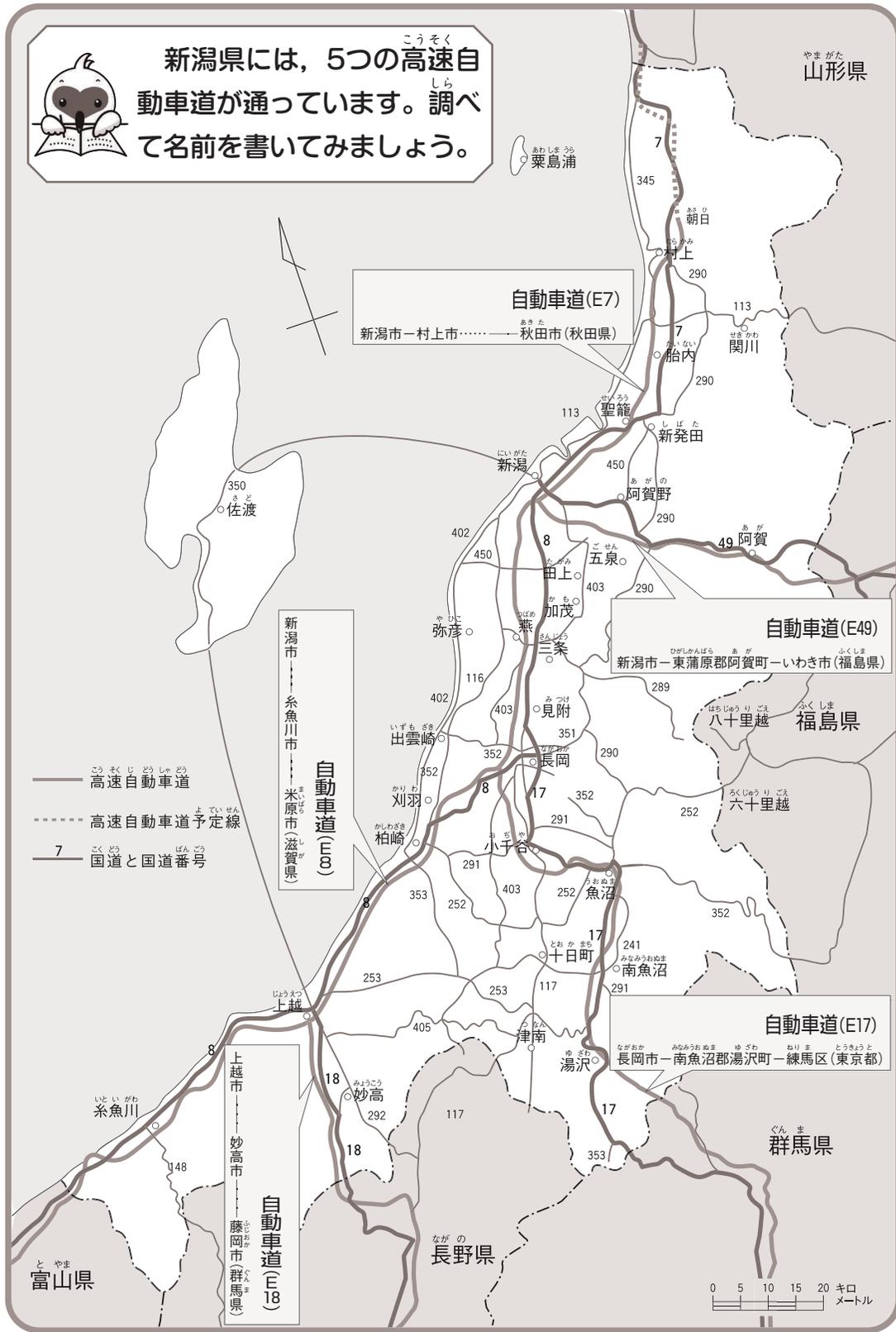


磐越自動車道（安田料金所）

高速道路の名前	区間	全長	県内の長さ
北陸自動車道(E8)	新潟市—糸魚川市—米原市(滋賀県)	476km	185km
関越自動車道(E17)	長岡市—南魚沼郡湯沢町—練馬区(東京都)	246km	94km
磐越自動車道(E49)	新潟市—東蒲原郡阿賀町—いわき市(福島県)	213km	61km
上信越自動車道(E18)	上越市—妙高市—藤岡市(群馬県)	205km	34km
日本海東北自動車道(E7)	新潟市—村上市……秋田市(秋田県)	250km	68km

新潟県内を通る高速道路 ※(E数字) ……高速道路ナンバリング(高速道路の路線番号)

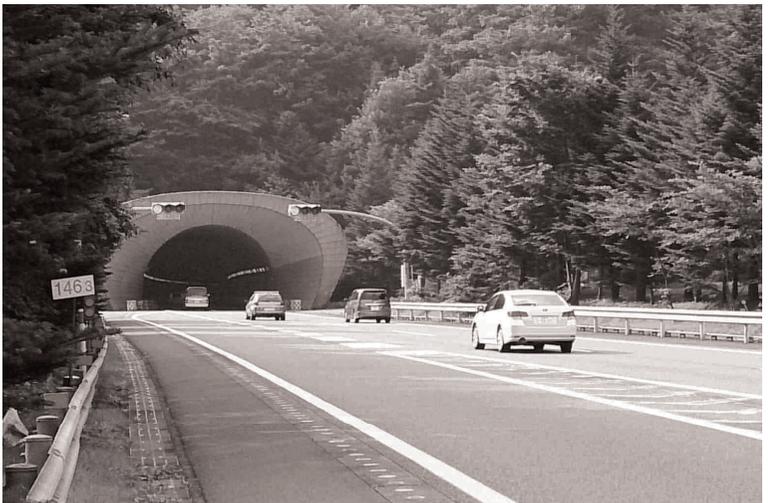




新潟県の主な道路

群馬県とのさかいにある関越トンネルは、約11kmあり、日本で2番目の長さです。1年間に、約600万台もの車が通ります。

北陸自動車道は、富山県や石川県を通り、さらに名神高速道路につながって、京都府や大阪府などに通じています。糸魚川市青海の親不知インターチェンジは、海上につくられています。国道8号は大雨になると通行止めになりますが、北陸自動車道は安心して通ることができます。磐越自動車道は、阿賀町を通過して福島県に通じています。日本海東北自動車道は村上市(朝日まほろばインターチェンジ)まで開通しています。上信越自動車道は上越市から長野市を通り、群馬県で関越自動車道とつながります。こうして、高速道路の整備が進んだことにより、日本各地へ早く行けるようになりました。

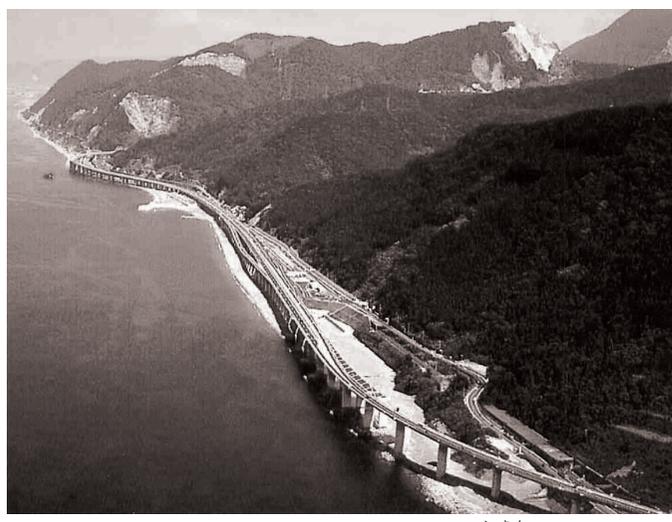


関越自動車道 関越トンネル

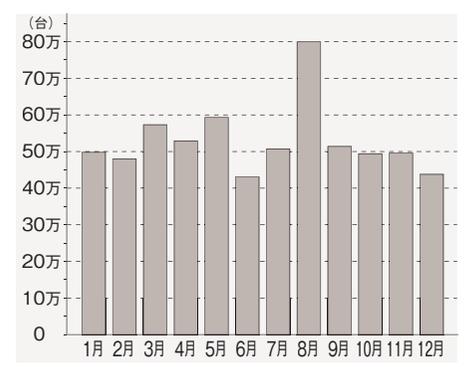
つな

10

15



北陸自動車道 親不知インターチェンジ付近(糸魚川市)



関越トンネルを利用した自動車数  
(東日本高速道路株式会社 新潟支社・2019年1月から12月まで)

いっばんどうろ  
一般道路 指

道路は通学や通勤・買い物など、毎日の生活で大切なはたらきをしています。生活の中で自動車を使うことが多くなり、道路の利用は年々ふえてきました。使いやすく安全でスムーズに移動できる道路や歩道がほしいという県民の願いを受け、県では地域に合わせた道路の整備を進めています。

新潟県は雪がたくさんふるので、車や人の安全を考えて、道路に消雪パイプや流雪溝をそなえたり、なだれのおそれのある所には、なだれ止めやスノーシェッドをもうけたりして、冬の間交通を守っています。

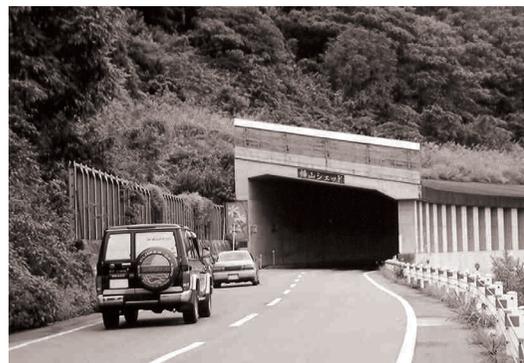
道路の所々には、大きな駐車場と休けいのできる「道の駅」というせつがあります。地域の特産品を買ったり、食事をしたりすることができるので、多くの人利用しています。



消雪パイプ(長岡市)



流雪溝に雪をすてている様子(魚沼市)



スノーシェッド(魚沼市)



日本で最初の道の駅「豊栄」(新潟市)

てつ どう  
鉄道



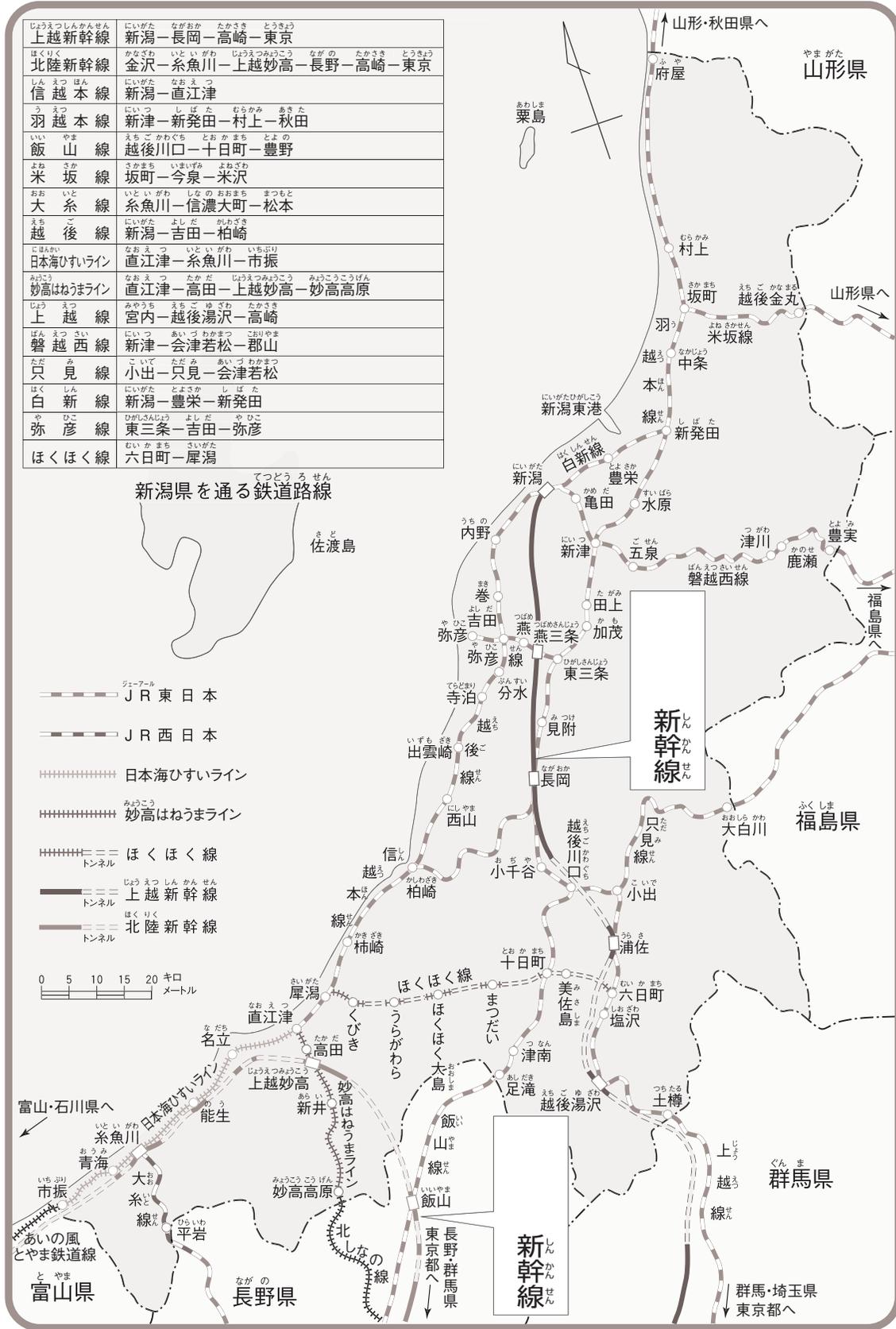
2015(平成27)年3月14日に開業した北陸新幹線

新潟県の鉄道

新潟県には、中・下越地方と東京都を結ぶ上越新幹線、上越地方と東京都や富山・石川県を結ぶ北陸新幹線が通っています。県をまたぐ在来線には、山形・秋田方面へ向かう羽越本線、群馬県へ向かう上越線などがあります。ほかにも、福島県へ続く磐越西線・只見線、山形県へ続く米坂線、長野県へ続く飯山線・大系線などがあります。県内の市町村を結ぶ信越本線・越後線・白新線・弥彦線・ほくほく線・日本海ひすいライン・妙高はねうまラインも、多くの人から利用されています。

鉄道は、一度に多くの人々を運ぶことができ、正しい時刻で運転されています。鉄道会社は、利用客のことを考えて運行時刻を計画したり、安全で快適に利用できるくふうをしたりしています。

磐越西線では、休日を中心にSL列車が運転され、家族づれなど旅を楽しむ人でにぎわっています。約130年前に直江津－関山間で県内に初めて鉄道が開通してから、鉄道は大切な交通輸送手段として利用されています。



新潟県内の鉄道 ⑩16

新幹線

1982 (昭和57) 年に開業した上越新幹線は、新潟駅と東京駅を約2時間で結ぶ高速鉄道です。上越新幹線の開通によって、首都圏との結びつきがいっそう強まり、多くの人に利用されています。

一方、上越新幹線を使って、東京方面からおとずれる人も多くなりました。ほくほく線や信越本線に乗りかえて、上越や柏崎方面へ向かったり、白新線や羽越線で山形方面へ向かったりすることもできます。



北陸新幹線新型車両歓迎セレモニー (上越市・2014年8月5日)

また、2015 (平成27) 年3月に、北陸新幹線が開通しました。上越地方が、東京や富山・石川方面と新幹線につながり、それまでより短い時間で行き来できるようになりました。

そのほかの鉄道

JR以外の鉄道では、ほくほく線(北越急行株式会社)があります。1997 (平成9) 年に開通した六日町駅と犀潟駅間の、約60kmを結ぶこの鉄道は、3分の2がトンネルです。そのため、乗客が楽しくすごせるように、電車の天井に星空や花火などをうつし出す「ゆめぞら号」を走らせています。



ほくほく線の「ゆめぞら号」の天井にうつし出される美しい宇宙の映像

また、北陸新幹線開通にともない、2015 (平成27) 年3月に、日本海ひすいライン、妙高はねうまライン(えちごトキめき鉄道株式会社)が開通しました。

担当：岩城先生

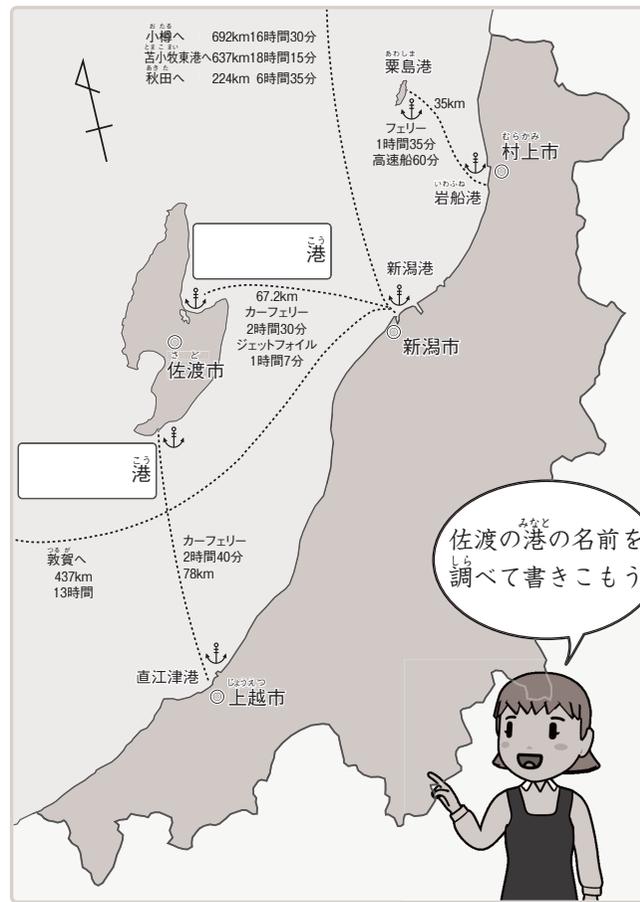
## 航路 佐渡航路

佐渡航路は、新潟港～両津港、直江津港～小木港を結ぶ2本があります。

新潟～両津航路には、「おけさ丸」(定員1705人)と「ときわ丸」(定員1500人)の2せきのカーフェリーと、「ぎんが」「つばさ」「すいせい」(定員250人)の3せきのジェットフォイルが行き来しています。

ジェットフォイルは、時速80kmで船体を海面に浮かせてすべるように走ります。カーフェリーでは2時間30分かかるところを、約1時間で着くことができます。

直江津～小木航路は、2021(令和3)年から、ジェットフォイルが就航していましたが、2023(令和5)年3月から、カーフェリー「こがね丸」(定員584人)が就航しています。所要時間は約2時間40分で、貨物や車も運べます。



新潟県の主な航路(国内)



カーフェリー ときわ丸



ジェットフォイル すいせい

## 粟島航路

村上市の岩船港と粟島浦村の粟島港の間を定期船が行き来しています。フェリー「ニューあわしま」(定員400人)と高速船「awalineきらら」(定員170人)の2せきです。



高速船「awalineきらら」

粟島浦村の人たちは、村上市などに用があるときや、島で必要な品物を運ぶときに利用しています。船は、1日に1～2往復しています。夏の観光シーズンには、定期船と高速船を合わせて、1日3往復することもあります。しかし、冬の日本海は海が荒れることが多く、船の出られない日が続くこともあります。

## その他の航路

新潟港からは小樽港(北海道)までを結ぶ航路と、敦賀港(福井県)と秋田・苦小牧東港(北海道)とを結ぶ長距離航路があります。



北海道へ行く長距離フェリー「らいらっく」

新潟港は、日本海側の国際港としても大切な役割があります。また、韓国や中国へは、貨物を運ぶコンテナ船が週9回運航されています。

最近では、直江津港でも韓国や中国へコンテナ船が週2回定期的に運航されています。

### 航空路

県内には新潟市と佐渡市の2か所に空港があります。新潟空港は国際空港として、右図の青線のように4本の定期航空路で各国と結ばれています。

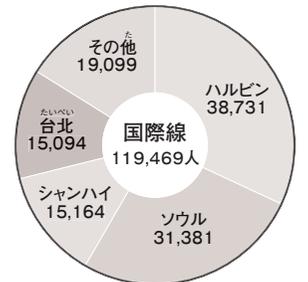
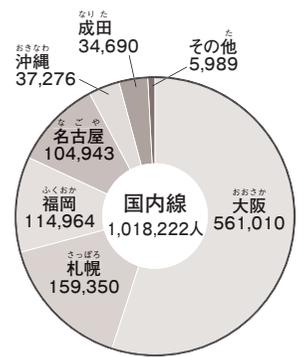
1996(平成8)年には新潟空港の滑走路が2000mから2500mに延長され、大型機が発着できるようになりました。

国際線は2020(令和2)年4月現在、ハルビン便(中国)が週に4往復、ソウル便(韓国)が週に3往復運航されています。その他の便は、週に各2往復運航されています。国際線を利用した人は、2019(令和元)年度には、約12万人でした。

国内線は2023(令和5)年4月現在、大阪・札幌など8路線で、1日に24往復運航されています。



新潟空港からの定期路線(新潟県・2020年)



年間航空旅客数(新潟県・2019年)



新潟空港

## 2

# 自然災害から人々を守る

指 5年「自然災害とともに生きる」

自然災害とはどのような災害のことをいうのでしょうか。また、自然災害から人々を守るため、だれがどのようなことをしているのか調べてみましょう。

県内市町村の洪水ハザードマップ



新潟県中越沖地震発生時の県内の震度(2007年7月16日)



救助される人々(三条市・2004年7月13日)

地震や津波、大雨による災害、火山活動による災害など自然の活動が原因で起こる災害のことを自然災害といいます。新潟県では、過去にも大きな被害を受けた災害があります。自分の住んでいる地域をはじめ県内の地域について、どのような大きな災害が過去にあって、どのような人々の支援や努力があって復旧・復興してきたのか調べてみましょう。

年	自然災害名
2004年	平成16年7月新潟・福島豪雨(7.13水害)
2004年	新潟県中越地震
2007年	新潟県中越沖地震
2011年	平成23年7月新潟・福島豪雨
2011年	東日本大震災
2011年	長野県北部地震
2022年	新潟県北部豪雨
2024年	令和6年能登半島地震

新潟県で近年発生した自然災害